

道元禅師の著された『正法眼蔵』の中に、「菩提薩埵(ぼだいさつた)四摂法(しょうぼう)」という巻があります。『正法眼蔵』は、そのほとんどが修行僧に向けて書かれているのですが、この巻は、一般の信者のために書かれたものだと考えられています。ということは、まさしくこの巻は、私たちのために道元禅師がお示しになったといえるのです。

「菩提薩埵四摂法」の巻は、菩薩が生きとし生けるもののために行う四つの行いが説かれています。

菩薩とは、観世音菩薩や地藏菩薩など、悟りの世界からこの人間界に来て、人びとと喜びや悲しみ苦しみを共にしながら、人びとの救済に努める仏さまのことです。

その人びとを救済するための菩薩の行いが、「布施・愛語・利行・同事」の四つであり、そしてこの行いこそが、私たち仏教徒が行うべき修行であり、生き方なのです。

本日はその中の四番目、同事についてです。

同じの同(どう)に、物事の事(こと)と書いて同事(どうじ)と読みます。

同事、「事を同じくする」とは、どんな意味があり、どんな行いなのでしょう。

道元禅師は『正法眼蔵』の中で、同事の「事」について、「事とは、礼儀作法・立ち居振舞いである」とおっしゃっています。

たとえば、小さなお子さんと接する時どんな態度で接しますか。膝をついて、子供の目の高さに見線を合わせ、出来るだけ子供でも分かるような言葉使いで話をするのではないのでしょうか。

このように、相手の姿や立場に自分を合わせる行いを、同事というのです。

大人同士の場合は、関係も複雑な分、相手の立場に立つということは、なかなか難しいことかもしれません。

まずは、人と人との関係を築くことです。私たちの生活は、多くの縁によって成り立っています。だからこそ「同事」によって、人との縁に気づき、受け入れ、より良いものとしなければならないのです。難しいことだからこそ、菩薩の行いであり、私たちの修行となるのです。

「同事」の説明の最後に道元禅師は、こんな言葉を記しています。

「ただまさに やはらかなる容<sup>ようがん</sup>顔をもて 一切にむかふべし」

〈ただまさに、いつも穩<sup>おだ</sup>やかに柔<sup>にゅうわ</sup>和な顔ですべての人に接するがよい〉・・・と。

— 終 —